

## カリキュラム・ポリシー

### 【教育課程編成方針】

健康福祉学科が目指す人材像を育成するために、次の3つの分野の教育を編成し実施します。

#### (1) 介護福祉士養成に必要な専門教育

利用者の「尊厳の保持」と「自立支援」の考え方をふまえ、生活を支えるための「介護」、介護を学ぶための基礎となる教養や倫理的態度を養う「人間と社会の理解」、多職種協働や適切な介護の提供に必要な根拠としての「こころとからだのしくみ」の3領域と「医療的ケア」を配置し、人々の生活の質を高めることができる介護福祉士を養成します。

#### (2) 福祉・介護に関連する幅広い教育

福祉の理念を幅広く学ぶとともに、福祉・介護に関連する分野で活躍できる福祉住環境コーディネーター、アクティビティワーカー、メディカルクラーク、ケアクラーク、介護福祉経営士、日商PC検定等、多様な資格取得をめざします。

#### (3) 人間性豊かな人材を育成する教育

人間らしい生き方や幸せとは何かについて「健康」を基盤に幅広く学び、学生主体のボランティア活動を通して、豊かな人間性を育くみます。また、介護現場のリーダーとして活躍できる人材を育成します。

### 【教育課程実施方針(学修過程)】

2年間にわたり、上記の教育を体系的・系統的に実施します。1年次は一般教養と介護の基礎を、2年次は専門教育と資格取得を重点的におこないます。

### 【学修成果の評価】

各教科目の成績評価は、シラバスに示された評価方法により、学修成果別評価基準（ルーブリック）に沿って、厳正に行います。

学期毎及び累計のGPAを算出し、総合成績評価を行います。

### 【教育課程実施方針（学修方法）】と【学修成果の評価方法】

(LO1) 知識・理解	<b>【教育内容】</b> <b>【教育方法・学修方法】</b> <b>【学修成果の評価方法】</b>	教養科目群による幅広い教養や一般常識、専門科目群による介護福祉並びにソーシャルワークや福祉ビジネスにおける知識、理解の獲得を図る。 講義科目と演習・実習科目ともに視覚教材の有効活用やアクティブラーニングの導入により、学生の興味関心を高めながら知識と理解の向上につなげる。 筆記試験や課題レポートなどで評価。
(LO2) 技能	<b>【教育内容】</b> <b>【教育方法・学修方法】</b> <b>【学修成果の評価方法】</b>	介護福祉、ソーシャルワーク、福祉ビジネスに求められる技術・技能の修得を目指す。 少人数での演習や実習形式の授業に加え、施設など学外実習を通して技術・技能の獲得を図る。 実技試験、プレゼンテーション、実習等の受入れ先評価など。
(LO3) 思考力・判断力 ・表現力	<b>【教育内容】</b> <b>【教育方法・学修方法】</b> <b>【学修成果の評価方法】</b>	教育課程全体を通して得た知識・技術・倫理を統合して課題を解決するための思考力・判断力・表現力を高める。 グループワーク、プレゼンテーション、多機関との連携その他の手法を用いて、思考力、判断力、表現力を身につける。 成果物の発表、意見発表、課題レポートや研究論文などを評価。
(LO4) 関心・意欲・態度	<b>【教育内容】</b> <b>【教育方法・学修方法】</b> <b>【学修成果の評価方法】</b>	人や社会の動きや福祉問題への関心・意欲を高める。また関連領域の基礎的な学習を早くから取り入れ、人の幸せについて主体的、対話的に深く学ぶ態度を養う。 課題や目標に、自分の力で計画的に取組ませる。全体の中で評価をおこない、自信につなげる。 課題レポート、試験、受講態度、実習等の受入れ先の評価など。
(LO5) 人間性・社会性	<b>【教育内容】</b> <b>【教育方法・学修方法】</b> <b>【学修成果の評価方法】</b>	介護実習やインターンシップ、授業でのグループワークなどを通じて、多様性を理解し、受容・共感する心を育む。また、実習やボランティア活動を通じて思いやりの心や多様な主体と連携・協調できる健全で豊かな人間力を養う。 課外活動の積極的展開と振り返りの実施。実習・インターンシップでの指導など。 外部からの評価、自己評価など。